

【ご参考資料】

世界経済の減速や金融市場の変動に対する懸念から米利上げ見送り

ポイント1 労働市場、内需は堅調だが外需は軟調

米国の金融政策決定の場であるFOMC（米連邦公開市場委員会）が9月16、17日に行なわれました。政策金利の目標レンジは0~0.25%に据え置かれました。

FOMC後の声明では、米国の労働市場は堅調で内需は緩やかに伸びている一方、輸出は軟調で、インフレ率はFRB（米連邦準備制度理事会）の目標とする2%を下回っていると述べられています。

ポイント2 成長率、インフレ率見通しを下方修正

最近の世界経済と金融市場の変動が米国の景気とインフレをやや押し下げる可能性があるとも指摘しており、FOMCメンバーによる見通しでも、2016年以降の成長率、インフレ率が、6月時点の見通しよりも下方修正されました。

一方で、FRBは米国経済は緩やかな回復を続け、労働需給は徐々に引き締まり、政策金利はこれまでの想定より緩やかなものの、徐々に上昇するだろうとしています。

ポイント3 米ドルは新興国通貨に対して上昇基調

利上げ見送り発表後、米ドルが円、ユーロなどの主要通貨に対して下落し、米国債利回りも低下しました。一方、先行きへの不透明感から新興国通貨は全般的に米ドルに対してやや下落しました。

米ドルは今年3月頃から主要通貨に対しては上昇が概ね止まっている一方、新興国通貨に対しては5月頃から上昇基調にあります。中国など、新興国の景気鈍化の懸念がある中、新興国通貨が米ドルに対して下落しやすい状況は続きそうです。それが米国の輸出や企業収益の減退、インフレ率低下に働くことで、米国の金融政策や市場にも影響を及ぼす可能性には、注意が必要でしょう。

重要イベント

- 10月2日 米雇用統計（9月）
- 10月28日 米金融政策発表
- 10月29日 米GDP（国内総生産、7-9月期、速報値）

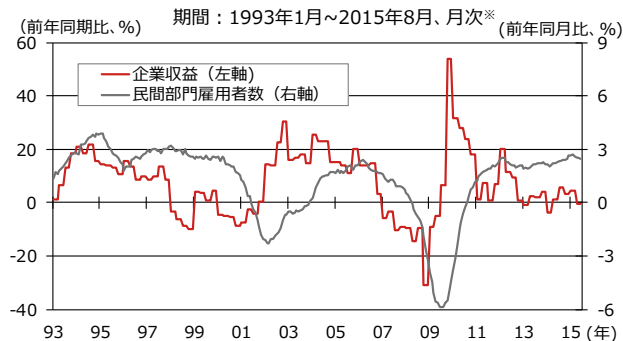
重要イベントは現地時間で記載しています。

【図1】FOMCメンバーによる見通し中央値

	2015年	2016年	2017年	2018年	長期
実質GDP* (6月時点)	2.1 1.9	2.3 2.5	2.2 2.3	2.0	2.0 2.0
失業率** (6月時点)	5.0 5.3	4.8 5.1	4.8 5.0	4.8	4.9 5.0
個人消費デフレター* (6月時点)	0.4 0.7	1.7 1.8	1.9 2.0	2.0	2.0 2.0
J7個人消費デフレター* (6月時点)	1.4 1.3	1.7 1.8	1.9 2.0	2.0	
政策金利目標*** (6月時点)	0.4 0.6	1.4 1.6	2.6 2.9	3.4	3.5 3.8

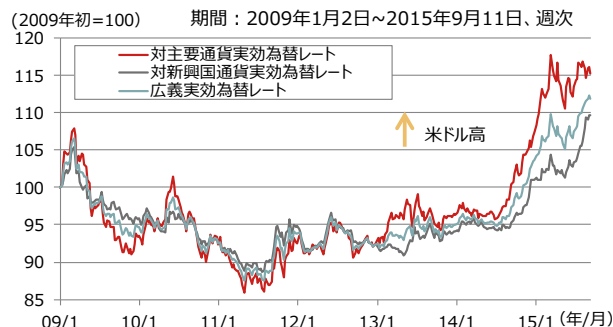
*第4四半期の前年同期比、**第4四半期の平均値、***年末未償
(出所) FRBのデータより野村アセットマネジメント作成

【図2】米国の企業収益と民間雇用



※企業収益のデータは2015年6月までの四半期データ
(出所) 米労働省、商務省のデータより野村アセットマネジメント作成

【図3】米ドル実効為替レート



(出所) FRBのデータより野村アセットマネジメント作成